

小学校 外国語活動 部会

部会長 福智町立上野小学校 校長 森 隆子
研究員 福智町立伊方小学校 主幹教諭 茅島 陽子
実践者 福智町立伊方小学校 教諭 沖島 美恵子

1 研究主題

英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～外国語活動における、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

近年、社会のグローバル化は急速に進展し、さまざまな分野での技術はめざましい発達を続けている。なかでも人工知能（AI）の飛躍的進化により、我が国の社会の構造や雇用環境は今後予測もできないほど大きく変化していくとされている。このような社会を生きる中で、子どもたちは、あらゆる場面で異なる言語や文化をもった人々との接触の機会をもったり、交流したりすることがますます増えていくと予想される。そこで、国際共通語である英語によるコミュニケーション能力の向上は不可欠である。

このような中、平成29年3月、新学習指導要領が告示された。これまでも英語教育の推進が図られてきたが、今後はこれまで以上に、小・中・高等学校が連携し、一貫した英語教育の充実・強化が求められている。そのために、小学校英語は「外国語」として正式な教科となり、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を活用して実際にコミュニケーションを図る言語活動をいっそう重視し、積極的に英語を使おうとする態度や、英語を用いて他者とのよりよい人間関係をつくろうとする態度を育成することが求められるようになる。

現在学校に学ぶ子どもたちが、社会で活躍する頃には、多文化、多言語、他民族の人たちと協調したり競争したりするようになり、社会的にも職業的にも外国語を用いてコミュニケーションを図る機会が確実に増える。さらに英語を用いて自らの考えや意見を相手や状況に応じて発信する力も身に付けておくことが必要となってくる。英語をはじめとする外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力は、生涯にわたるさまざまな場面で必要とされることが予想される。

以上のことから、本研究がめざす『英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童を育成』していくことは、大変意義深いと考える。

(2) 小学校外国語教育の動向から

文部科学省において外国語教育について本格的に導入が検討され始めたのは1990年代に入ってからである。平成10年告示の学習指導要領により、「総合的な学習の時間」の枠において、国際理解に関する学習として「外国語会話等」を実施することができるようになったが、地域によっても学校によっても内容や方法はさまざまであった。その結果、教育の機会均等という面から課題が指摘されるようになり、共通の指導内容を設定することの必要性が強く求められるようになった。

平成20年3月告示の学習指導要領により、平成23年4月から小学校5・6年を対象に外国語活動は全面実施され、その活動は充実したものとなった。特に児童の高い学習意欲や、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった大きな成果が認められており、教科として外国語の学習を開始する前に、外国語活動として外国語の音声によるコミュニケーションを体験しておくことは、後の外国語学習にとって大きな意義があることが確認された。しかし、その一方で、音声中心で学んだことが中学校段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないなど、外国語活動での学びがうまく中学校英語教育に生かされていない等の課題もみられた。このようなことから、小学校新学習指導要領では、それまでの外国語活動の成果と課題を踏まえ、中学年に外国語活動、高学年に教科外国語科が導入されることとなった。外国語活動は年間35時間程度、外国語科は年間70時間程度の設定である。小学校における外国語教育では、中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動に慣れ親しみ、外国語学習への動機づけを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」及び「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることが求められている。

新学習指導要領への移行期間である平成30年度と31年度は、中学年において15時間以上、高学年において50時間以上の外国語活動を実施し、平成32年度の全面実施へと備えることとなる。新学習指導要領の考えに則り、小学校の外国語教育をさらに充実させるため、本研究主題を設定した。

3 主題・副主題の意味

(1) 「英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」とは

外国語活動の中で設けられたさまざまな場面において、それまでの活動の中で体験を通じて慣れ親しんだ英語の知識や技能を積極的に用い、自ら進んで相手に話しかけたり、尋ねたりしようとする、また、生活の中で英語を話す機会があれば、思考力・判断力・表現力を働かせ、積極的に英語を活用してコミュニケーションを図ろうとする児童を育てることである。

(2) 「外国語活動における、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とは〈主体的な学び〉

外国語教育における「主体的な学び」とは、

- ① 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味・関心をもつこと
- ② 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとすること
- ③ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組むこと
- ④ 自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげること

である。

〈対話的な学び〉

外国語教育における対話的な学びとは、表面的なやり取りだけではなく、他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることである。小学校では、聞いたり話したりすることが中心となるが、書かれたものを読んで社会や世界の様々なことについて知ったり、他者の考え方を学んだり、自分の考えを深めたりすることも、対話的な学びであると考えられる。

〈深い学び〉

外国語教育における深い学びとは、

- ① コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて思考力・判断力・表現力を発揮する中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識がさらに深まり、それらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなるようにすること
- ② 深い理解と確実な技能に支えられて、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用されるようにすることである。

これらの「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを行うことで、外国語教育における学習が、児童一人一人の資質・能力の育成や、生涯にわたる学びにつながる意味ある学びになると考える。

4 研究の目標

第3学年の外国語活動において、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを通して、英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成をめざす。

5 研究仮説

次のような着眼で、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを行えば、児童は、英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとするようになるであろう。

【着眼1】ゴールの明確化

- 単元の終わりには、英語でどのようなことができるようになるかを最初に示し、児童に単元全体の見通しをもたせる。また、指導者も単元のゴールをしっかり意識し、「聞くこと」中心の活動から、少しずつ「話すこと」へと段階的にゴールへ向かう構成を仕組み、児童に過度の負担をかけないようにする。

【着眼2】1単位時間の授業のパターン化

- 毎時間の授業をパターン化して黒板に示し、児童が不安を感じることなく授業に臨めるよう工夫する。授業の始めや終わりの挨拶も、児童が自信をもって英語で挨拶できるよう決めておく。

【着眼3】聞く・話す必然性がある場の設定

- 児童にとって「聞く・話す必然性」がある場を意図的につくり、学びに向か

う意欲を十分引き出した後、コミュニケーション活動を行う。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元名 I like blue. すきなものをつたえよう (Let's Try 1 Lesson 4)

(2) 単元の指導目標

- ・多様な考え方があることや、外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付き、色の言い方や、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- ・自分の好みを伝え合う。(思考力、判断力、表現力等)
- ・相手に伝わるよう工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 言語材料

○表現

I like (blue). I don't like (blue).

Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't.

○語彙

色 (blue, red, green, yellow, pink, black, white, orange, purple, brown)

スポーツ (soccer, tennis, baseball, basketball, dodgeball, swimming)

飲食物 (ice cream, pudding, milk, orange juice)

野菜 (onion, green pepper, cucumber, carrot)

(4) 該当する学習指導要領における領域別目標

(1) 聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
(2) 話すこと [やり取り]	イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

(5) 単元指導計画（4時間）

時	目標（◆）と主な活動（【 】, ○）	◎評価（方法）
1	<p>◆多様な考え方があることに気付くとともに、色の言い方に慣れ親しみ、好きなものを表す表現を知る。</p> <p>【Let's Sing】 The Rainbow Song ○自分のにじをかこう「My Rainbow」 ・誌面に好きな色を塗り、自分の虹を完成させる。</p> <p>【Let's Watch and Think①】 ・クラスの児童が描いた虹の絵を見て、それぞれの違いに気付く。</p> <p>○おはじきゲーム ○好きな色を教える ・指導者が、自分の好きな色を挙げるなどして児童にも発話を促し、好きなものを表す表現に出合わせる。</p> <p>【Let's Listen①】 ・誰が何色を好きか聞いて線で結ぶ。</p>	<p>◎多様な考え方があることに気付く。〈行動観察、振り返りカード分析〉</p> <p>◎色を聞いたり言ったりしている。〈行動観察、振り</p>

	【Let' s Chant①】 I like blue. (色編)	振り返りカード点検)
2	◆外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付くとともに、好みを表す表現に慣れ親しむ。	
	<p>【Let' s Sing】 The Rainbow Song</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カラー・タッチ・ゲーム ○ 先生の好きなものとそうでないものを知ろう ・ 指導者は自身の好きなものとそうでないものについて話し、児童がI [like / don' t like] ~. の意味を分かるようにする。 <p>【Let' s Listen②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を聞いて登場人物の好きなスポーツや、そうでないスポーツの番号を書く。 <p>【Let' s Chant②】 I like blue. (スポーツ編)</p> <p>【Activity】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カード・デスティニー・ゲーム 	<p>◎英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付いている。〈行動観察、振り返りカード点検〉</p> <p>◎好みを表す表現を聞いたたり言ったりしている。〈行動観察、振り返りカード点検〉</p>
3	◆好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ自分の好みを伝え合う。	
	<p>【Let' s Sing】 The Rainbow Song</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Who am I? クイズ ・好きなものとそうでないものをヒントとして聞かせ、校内の先生の誰かを当てさせる。 <p>【Let' s Chant③】 I like blue. (質問編)</p> <p>【Activity】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インタビューゲーム ・色、スポーツ、飲食物と野菜の3つのグループの内、それぞれ1つずつ好きなものを選び、ワークシートに書き込む。 ・ペアで好きかどうかを尋ね合う。 ・自分の選んだ3つの好きなものを全部好きな友達(運命の人)をインタビューしながら探す。 	<p>◎好きかどうかを尋ねたり答えたりしている。〈行動観察〉振り返りカード〈点検〉</p> <p>◎自分の好みを伝え合っている。〈行動観察、ワークシート、振り返りカード点検〉</p>
4	◆相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。	
	<p>【Let' s Sing】 The Rainbow Song</p> <p>【Let' s Chant①～③】 I like blue.</p> <p>【Activity】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介シートを作成し、自分の好みを交えて自己紹介をし合う。 	◎相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介している。〈行動観察、ワークシート、振り返りカード点検〉

(6) 授業の実際

①本時の主眼

好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、自分の好みを伝え合うことができる。

②準備物 デジタル教材、ワークシート、振り返りカード、教師用絵カード（色）

③本時の展開（3/4時間）

時間	児童の活動	指導者（T）の活動と使用英語例	準備物
4分	挨拶をする。	・体調や日にち、曜日、天気を尋ねる。	曜日、日付、天気カード
4分	○Hello Song 【Let's Sing】 The rainbow song	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材
5分	○Who am I? クイズ ・ヒントを聞いて誰かを当てる。	・Who am I? クイズをすることを告げる。	写真（校長先生や校内の教職員等）、絵カード（色、スポーツ、飲食物と野菜）
<p>〈活動の手順〉</p> <p>まず、指導者は、はてなマークのついた人のカードを貼り、校内のある先生になりきって、2枚の絵カードについて I [like / don't like] ～. とジェスチャーを付けて好きか嫌いかを言い、その人はだれか児童に尋ねる。次に、その先生の写真をホワイトボードに貼りながらそれが誰かを確認する。さらに、ホワイトボードに貼付した絵カードを指し示し、児童に Do you like ～?と尋ね、Yes? No? などと手を挙げさせる。</p>		・答えの教職員の写真を黒板に貼りながら、それが誰かを確認する。	
5分	○本時のめあてをつかむ。		
すきなものをたずねよう。			
	・友達に好きかどうかを尋ねる時の表現の仕方を知る。	Do you like ～? Yes , I do. No ,I don' t.	
3分	【Let's Chant】 Do you like blue?	・児童と一緒に言う。 Do you like blue? Yes , I do. Do you like red? No ,I don' t.	
12分	【Activity】 ○インタビューゲーム		ワークシート
<p>〈活動の手順〉</p> <p>色、スポーツ、飲食物と野菜の3つのグループの内、自分が好きなものを1つずつ選んでワークシートに書く。その3つのものについて好きかどうかを友達に尋ね、自分と好きなものが3つとも同じ運命の人をインタビューしながら探す。まず、デモストレーションを見て、インタビューゲームのやり方を知り、その後、ペアで尋ね合った後、全体で尋ね合う。</p>		・友達にインタビューをすることを告げる。	

		T: Let's interview. Are you ready? Please ask, 'Do you like blue?' And answer 'Yes, I do.' or 'No, I don't.' ◎ 好みを尋ねたり、好みを表す表現を言ったりしている。 〈行動観察、振り返りカード点検〉	
9分	・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・児童の英語を使おうとする態度についてよかったところを称賛する。	振り返りカード
3分	・挨拶をする。	・挨拶をする。	

7 研究のまとめ

【着眼1】ゴールの明確化について

- 9月から外国語活動に取り組んだ本学級児童は、Lesson 2『How are you?』の単元を体験し、およその単元全体の流れをつかむことができた。そこで、本単元に入る前に「友達に自分の好きな物や好きなことを紹介する」という単元のゴールをつかませ、単元全体の見通しをもたせたこと。このことにより、児童は「自分のことを英語で友達に紹介したい」という意欲をもって、単元の終わりまで活動を行うことができた。

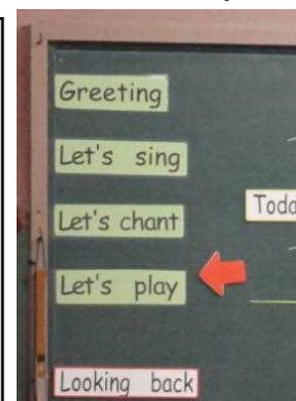
【着眼2】1単位時間の授業のパターン化について

- 授業の流れをパターン化し、【写真1】のように黒板に掲示した。展開中にどの学習活動を行っているのかが児童に分かるように、次の活動に移るごとに矢印のカードを動かしていくようにした。使い慣れた日本語ではなく英語で授業中の指示を聞くだけで児童は不安であると思うが、毎時間の授業をパターン化し視覚的に児童に示すことで児童は自信をもって次の活動へ臨むことができた。授業の始めと終わりの挨拶も【資料1】【資料2】のように決め、毎時間慣れさせていった。回数を重ねるごとに児童は自信をもって大きな声で挨拶ができるようになっていった。

〈始めの挨拶〉
Stand up, please!
Let's start English class!
→ Let's start!
Hello, everyone!
→ Hello! Ms.○○ sensei.
How are you?
→ I'm ○○, thank you.
And you?
I'm ○○, thank you.
Sit down, please.

【資料1】

〈終わりの挨拶〉
That's all for today.
Stand up, please!
Thank you, everyone!
→ Thank you, Ms.○○ sensei.
Let's finish English class!
→ Let's finish!
Good bye, everyone!
→ Good bye!
Sit down, please.
See you!
→ See you!



【写真1】

【資料2】

- ウォーミングアップで、毎時間英語の歌を歌ったことがよかった。本單元では、毎時間『Rainbow song』を歌ったが、『色』を英語でリズムカルに歌えたり、イントネーションにも気をつけて発音することができた。

【着眼3】聞く・話す必然性があるようなコミュニケーションの場の設定について

- Do you like～? / Yes, I do. / No, I don't. の構文でインタビューゲームを仕組んだ。自分が好きなものを3つ選んでワークシートに書き、その3つのものについて好きかどうかを友達に尋ねるゲームである。このゲームを始める際に『自分と好きなものが3つとも同じ運命の人を探そうね!』という声かけをした。児童は、『運命の人』を探したいという意欲をもってインタビューゲームに参加することができた。構文への慣れが十分であったなら、ゲームはさらに盛り上がりを見せたと思う。

8 成果と今後の課題

【成果】

- 今回、外国語活動に取り組んだことで、「英語が大好きだ」という児童が増えた。外国語や外国の文化に対する興味・関心が増し、「この言葉は英語で何というのかな?」「もっと英語の歌を知りたいです。」などの声がたくさん聞かれるようになった。3学期には係活動で英語係もでき、子ども達の生活の中に、外国語を使うことが浸透してきている。
- 外国語活動や外国語科の授業では、楽しい雰囲気づくりが大切である。そこで活動中、指導者は、常に笑顔で楽しい雰囲気をつくり出すよう気をつけた。また、児童が発言をしたときは必ず英語で児童をほめた。そうすることで学級には、温かく相手を受け止める雰囲気ができ、児童は自信をもち安心して英語を話すようになっていった。
- 文部科学省の指導計画通りに活動を進めたが、数名の児童にとっては進度が速く、英語での指示の意味がわからない児童や、単語を覚えきれずに意欲的に活動できない児童が見られた。そこで、英語での指示の後に日本語で説明したり、休み時間に単語カード遊びをしたりすることで、それまで意味が分からずに意欲的に参加できなかった児童も、楽しく活動に参加できるようになっていった。外国語教育の時間には、指導者がクラスルームイングリッシュを使うことは鉄則だが、指導者は児童の実態を的確に把握し、それに合った支援をしていかなければならない。

【今後の課題】

- 本單元では、主眼で、Do you like～? / Yes, I do. / No, I don't. の構文に慣れ親しむことと、コミュニケーション活動の交流をすることの2つをねらっていた。しかし、新しい構文を初めて学習した本時にコミュニケーション活動までねらうということは、3年生にとっては難しかった。

たとえ話す必然性があったとしても、新しい構文に慣れていなければ、十分なコミュニケーション活動を行うことはできない。充実したコミュニケーション活動を行うためには、児童の発達段階を考慮した上で構文にしっかり慣れさせてお

くことが、必要不可欠である。

- 来年度からいよいよ平成32年度の新学習指導要領全面実施に向けて移行措置が始まる。3年生から6年生までの担任は週一度もしくは週二度の外国語活動をいっていくことになる。しかし、全ての教師が外国語活動の授業に対して意欲的であるわけではない。移行期に使用する教材やデジタル教材はきちんと準備されてはいるが、超多忙である小学校の職員が、新しい取組に対して十分に対応できるのか。外国語活動を楽しい雰囲気の中で実践していくことができるのか。今までも外国語活動に関する校内研修に取り組んではきたが、今後も継続して、真剣に外国語活動の校内研修に取り組んでいかなければならないと強く感じている。

◎ 参考文献

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| 「小学校学習指導要領」(H29) | 文部科学省 |
| 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」(H29) | 文部科学省 |
| 「小学校学習指導要領解説 外国語編」(H29) | 文部科学省 |
| 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック・基本編」 | 文部科学省 |
| 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック・理論編」 | 文部科学省 |
| 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック・研修指導者編」 | 文部科学省 |
| 「初等教育資料 2016・9月号」 | 文部科学省 |
| 「初等教育資料 2017・11月号」 | 文部科学省 |
| 「小学校英語教科科への対応と実践プラン」 | 吉田研作 教育開発研究所 |